

Les Ressources du mois

- Janvier 2012 -



Le livre du mois



« Le Colonel Chabert » Honoré de Balzac (1844)

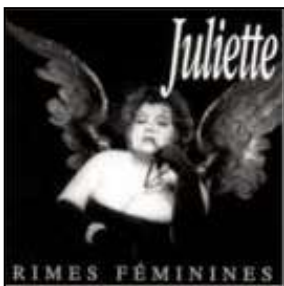
『シャベール大佐』 オノレ・ド・バルザック著

この有名な小説は、アイラウの戦いで九死に一生を得て戻ってきたナポレオンの勇者の話である。

死んだものと思われていたシャベール大佐が、変わり果てた姿で、身分を証明するものもない状態で戻ってきた。自分の財産に手をつけることもできず、妻からは話すことも拒まれる。妻は、彼がいない間に王党派の男と再婚をし、その人との間に二人の子どもまでいたのだ。そんなある夜、自分が代理人となり、その妻相手に訴訟を起こさないかという提案をしに、一人の法律家がこの不幸な男の所へやってくる…。この悲劇は法制度のひずみを告発する本でもある。

19世紀の大作家バルザックの入門書として、面白い一冊。ぜひご一読を！

A écouter à tout prix !



« Rimes féminines » Juliette (1996)

フランス・シャンソン界の巨大なアーティストをぜひ知ってほしい。このCDは、ユーモアたっぷり、そして辛辣だが繊細で人間味あふれた濃厚な一枚。一つ一つのシャンソンが、音楽とポエムのジュエリーのように…。

Le film coup de cœur



« L'arnacœur » Comédie réalisée par Pascal Chaumeil (2010)

『ハートブレイカー』（コメディ映画）105分

監督 パスカル・ショメイユ

出演 バネッサ・パラディ、ロマン・デュリス

軽いタッチのラブコメディ。

アレックスと彼の姉夫婦は、『心を傷つけることなく女性を自由にする』という信条の特殊エージェントを運営していたのだが…。

A découvrir



« 100 photos du siècle » Marie Monique Robin (1999)

著：マリー=モニック・ロバン

この本は、報道写真を別の視点から見せている。

我々に伝えそして行動を起させるために、様々な男たちや女たちが、時に命をかけてとってきた、一世紀を代表する写真100点。どの写真も感動的である。また、写真家や写真の主題に関する話題も多数収録されており、感動の一冊といえよう。

En français facile



Magazine « je bouquine, Le jour où j'ai embrassé un poulpe » (février 2012)

『je bouquine』2012年2月号に収録されている『たこを抱きしめた日（仮題）』の中で、ラファエル・ムサフィールは、同年代の女の子たちと同じように、いつも、自分は誰なのか、何をしたいのかを自問している一人の少女「シベル」を登場させる。父親は仕事で忙しく、母親とは話があわないシベル。

そんなある日、体育の時間に、ミロという新しい男子生徒が編入してきた。シベルは、ユーモアたっぷりに自分のことを語っていく。とにかく読んでみ